Pearson VUE

周産期医療の世界トップレベルを維持する日本周産期・新生児医学会をサポート

世界水準の医療を提供する医学会の専門医試験を全国で配信

日本の周産期医療は世界トップレベルの水準を誇ります。近年では、日本の新生児死亡率(生後28日未満の児)は出生1,000人あたりわずか0.9人 となっています。[1] 2004年に設立された日本周産期・新生児医学会(JSPNM: Japan Society of Perinatal and Neonatal Medicine)は、胎児、新生児ならびにそれに関わる母性、母体に関連する医療、研究水準の向上を図ることを目的としています。JSPNMは、胎児、生後4週未満の新生児、および母体に関する専門医療における医療従事者を育成し、国民の福祉の増進に大きく寄与しています。

世界的なパンデミックに対応し、試験規模を拡張

新生児と母体・胎児の2つの領域における専門医の認定に重点を置いているJSPNMは、コロナ禍においてその試験の実施に大きな影響を受けました。2020年のJSPNMの専門医試験(新生児、および母体・胎児)は中止となり、そのため翌年はこれらの試験に対する需要が増加し、それに対応する必要がありました。さまざまな専門分野にわたる120以上の医療およびヘルスケアに関する認定プログラムを世界各国で提供し、イベント型試験における長年の経験を持つピアソンVUEは、2021年に試験規模を拡張するための理想的なパートナーでした。

コンピュータ・ベースド試験へ移行することにより、JSPNMは、当時医師に課せられていた越境を含む移動制限や、重要な医療プロフェッショナルである受験者の安全に対するリスクに対応できるようになりました。日本周産期・新生児医学会 専門医試験委員会の委員長である谷垣 伸治先生は、次のように説明しています。「専門医試験を1年間実施できなかったため、2021年は専門医の認定を目指す受験者が大幅に増加しました。私たちは数百人の医師を収容できるより大きな会場を確保する必要があり、そのような規模で試験を実施するのは困難であると考えました。しかし、ピアソンVUEの支援により、日本全国に広がるピアソンVUEのテストセンター網を利用することで、試験を拡張することができました。」

ピアソンVUEは、堅牢なセキュリティ対策を講じたピアソンVUE公認テストセンターを日本に約130ヶ所設置し、試験コンテンツを保護しながら安全に配信しています。複数の会場から選んで試験予約ができるようになり、多忙な医師である受験者にとって、より利便性の高いものになりました。これまでJSPNMはすべての受験者をひとつの試験会場に集め、一斉に試験を実施していましたが、今では日本各地にあるピアソンVUEのテストセンター網から受験者自身で近隣の会場を選択することができます。地方在住の受験者にとっては、受験のために一泊二日かけて移動する必要がなくなり、特に小さい子供がいる受験者は、そのために子供を預ける必要がなくなりました。

(写真左から) 専門医試験委員会 委員長 谷垣 伸治先生、委員長 北東 功先生

[1] https://www.nicu.jp/about/

また、CBTの試験を初めて受ける受験者も多くいましたが、用意されたデモ試験にアクセスして試験本番までにCBTを体験することができました。受験者はフラグ機能を使って気になった問題を後から見直すことや、試験の残り時間や未回答の問題数を常に画面上で確認することもできます。「紙試験に比べ、試験全体を把握するのが難しいのでは、と初めは思っていました。スクロールしたり、クリックして画像を表示させるなどの操作が必要なことを心配していましたが、実際は想像以上に効率的でした。」と谷垣先生は語っています。

日本周産期・新生児医学会 専門医試験委員会の委員長である北東 功先生は、次のように述べています。「受験後にアンケートを実施したところ、97.2%の回答者がCBTでの試験を支持していました。セキュリティのしっかりしたピアソンVUEの受験環境や、会場と試験の開始時間を受験者自身が自由に選択できることを高く評価するコメントなど、多くの好意的なコメントがありました。」

更なる試験データの収集と活用

より高いセキュリティと利便性に加え、試験をCBTで配信することで、以前の紙試験では取得できなかった多くのデータをJSPNMは収集し活用することが可能です。

例えばJSPNMの試験のようなハイステークスな医療試験は、CBTで実施することで多様な項目(設問)タイプを活用し、状況判断や診断力について実際のスキルや能力を効果的に測定することができます。

JSPNMはデータ分析によって、試験コンテンツの作成の効率化と試験の質をより良いものにすることを検討しています。「今後は、どの設問の正答率が高いか低いかだけでなく、各設問の難易度の検証など、個々の設問をより客観的に評価できるような分析サービスの利用を考えています。」と北東先生は語っています。

試験のあらゆる側面で利便性を向上

CBTを活用することで、JSPNMは試験の改善点を特定することができ、最終的には周産期医療の水準を維持することを可能にします。

> “試験の合格のハードルは高くても、試験を受けることのハードルは高くあるべきではない、と考えています。ですから受験するためのハードルを下げることは、我々マネジメントの責任であると認識しています。”
>
> 日本周産期・新生児医学会 専門医試験委員会
> 委員長 谷垣 伸治先生

谷垣先生はまた、次のように話しています。「紙試験では必要だった会場の確保、試験官の手配、試験採点、集計といった時間のかかる作業が、CBT化により不要になったという点についても、運営側としては大変助かっています。」

ピアソンVUE
ナショナル・コンピュータ・システムズ・ジャパン(株)

CBTのサービスに関する詳細
PearsonVUE.co.jp

ご質問などのお問い合わせ
PearsonVUE.co.jp/contact-biz

Copyright © 2023 Pearson Education, Inc. or its affiliate(s). All rights reserved.